

## 1. 課題設定の背景

当教室は主に日本語教師としての有資格者のボランティア支援者が多く在籍している。日本語能力向上や試験合格を目的とした外国人参加者とうまくペアリングし、日本語学習を通して「つながり」や「居場所」ができた場合、双方ともに教室参加の定着に結びつくケースが多い。一方で、国際交流や居場所づくり等、日本語学習支援以外を目的とする参加希望者への継続的な参加ができていない。現状課題として、参加者が最初に登録をする段階で支援活動領域の希望、ニーズのヒアリングがうまくできていないことで、支援者ニーズと学習者ニーズが合わず、参加継続ができていないケースがあると考えた。

## 2. 課題の設定

上記のにより当教室の課題を2つ設定した。

- ① 支援者間で教室活動方針の理解を深め、活動ごとに参加継続を図ること
- ② 教室参加希望者の登録内容を修正し、支援者と外国人参加者ニーズをマッチングさせること

## 3. 課題解決のための取り組みの変遷

期間	内容
2023年9月	①教室長へ教室活動領域の現状確認と教室参加者の定着、継続と課題について意見交換を行った。
	②ボランティア支援者と外国人参加者の登録書の質問項目の修正とデータ化したフォームの作成。
2023年10月	③ボランティア支援者間に試行版登録書を送り、修正、追加等について検証、意見を収集した。
	④SNSへの教室活動の広告と登録書の掲載を行った。
2023年11月	⑤配布、掲載用の教室チラシの作成
2023年12月	⑥現参加者との活動状況のヒアリングの実施。
2024年1月	⑦ボランティア支援者との勉強会の実施

### 3-1. ボランティア支援者への活動方針についてのヒアリングの実施

教室長と教室活動の目的や参加者ニーズに共通認識があるか確認を行うとともに、現状の教室の在り方について課題を共有した。教室長と日本語学習以外を目的とした外国人参加者ニーズの対応の検討と支援者ニーズの把握の必要性について意見交換ができた。また、現支援者との定期的なミーティングを実施し、ヒアリングを通して、外国人参加者とボランティア支援者のマッチングがうまくできていないこと、今後は参加者情報のデータ共有やレッスン記録のデータ管理の徹底を行うとともに、個人情報の取り扱いや管理について誓約書を新たに作成するなど、課題の共有と対策について意見交換をすることができた。

### 3-2. 登録者フォームの活動領域の細分化とデータ化

従来の紙媒体の登録書からリンクやQRコードで読み込み、端末から入力ができるフォームに修正した。登録作業が簡略されること、データベース化した登録情報がすべての支援者間で共有できること、活動領域、関心事項を細分化することにより、外国人参加者とのマッチングをしやすくしたいと考えた。参加の目的として「①日本語学習支援②文化交流やイベントの参加③生活相談」で分けたが、教室長含め、現ボランティアが思う教室活動の目的は「日本語学習支援」に偏っており、項目を最終的に「日本語学習支援」と「イベント参加や生活相談など」という2項目に分けることにした。

また、学習目的やレッスン内容などの学習者情報についてはデータで管理し、支援者間で変遷や進捗が見られるようにすることにした。ただ、SNSの投稿やデータの管理や取り扱いは個人情報保護の観点から、規約、制約をつけることで現在話し合いを進めている。

### 4. 実践を通じて見えた課題

当教室では入会時に教室長から教室活動方針と現参加者の状況について説明を受けた後に入会登録を行っている。当初の教室長のヒアリングでは、日本語学習者以外の継続的な参加が図れていないことやボランティア不足について課題を共有したものの、定期ミーティングを通して教室長含め、現ボランティアが思う教室活動の目的は「日本語学習支援」に偏っていること、活動方針やニーズについてはかなり変動的な部分があることが見えてきた。教室運営や参加登録管理において教室長のみが主軸にならず支援者間での定期的なミーティングやデータベース化した記録を残すことで共に共通認識のもとに活動運営していく必要があると考えた。

また、外国人参加者の登録書も教室長とレッスン担当者以外には公開されないため、支援者全体でマッチングの検討が行えていないことを認識した。

登録をデータベース化することについては、機器操作への抵抗や個人情報管理の認識に大きな隔りがあると感じた。

### 5. 地域日本語教育コーディネーターとしての役割と視点

外国人住民の増加に伴い、地域日本語教育機関が様々な背景を持つ外国人材を地域社会の構成員として受け入れ、支援の体制を整備していくことは急務である。地域日本語教育コーディネーターとして、行政や地域住民、ボランティア支援者を巻き込み、活動を行っていくことが求められるが、私自身としてはまずは所属する教室の中で、教室長、ボランティア支援者、外国人参加者をつなぐパイプ役として機能していきたいと考える。様々な目的や背景、ビリーフを持つ参加者が集う教室の中で、参加者のニーズは「変わっていくこと」が前提とし、コーディネーターが対話できる機会を持ち、人とつながり、信頼できる関係性を築いていくことで教室活動の支援体制の整備と強化を図りたい。コーディネーターとして、ある目的のために、対話を通して共に歩み、一つの考えに固執せず柔軟に対応できることを大切にしていきたい。最後に、今回の最終研修を通して、教室の在り方について、私自身が「定着」や「継続」に縛られていたことに気づかされ、「参加者ニーズ」について改めて考え直す機会をいただけたことを感謝したい。